Catch the WAVES !

新潟県立佐渡中等教育学校
学校だより令和4年度3月号②
HP:http//www.sado-ss.nein.ed.jp

校長先生　全校集会　講話　令和5年３月24日

おはようございます。今年度、全員が登校する日は本日が最後となります。まずは今年度もいろいろあった一年、よくここまで頑張った、と褒めたいと思います。

生徒の皆さんに生徒会誌「曙」第11号が渡されたと思います。全校生徒、個々の生徒の輝かしい活躍、成果等に目を通して、今年度を振り返ってほしいです。巻頭言には前号に続きコロナ禍３巡目の世の中、学校の動きの概要を記しました。コロナ禍２巡目の昨年度からICT活用授業が推進され、今年度は軌道に乗り、臨時休業や停電による登校困難の際にも活用されました。制限・制約の中、創意工夫ある学校行事が行われ保護者の皆さんも参観できました。延期・代替された５学年の長崎への国内研修旅行、３学年の長野・山梨方面への修学旅行の実施、そして２学年の大阪・京都方面への修学旅行は予定通り実施できました。来年度はいよいよ海外研修旅行再開に向け準備中であり、学校生活が更に一歩前進していきます。

先週15日の卒業証書授与式、そして４月以降学校においては、マスク着用しないを基本とし、いよいよアフターコロナが到来となりそうですが、健康管理にはくれぐれも注意しながら学校生活を送っていきましょう。

この一年間は、皆さんにとってどんな年だったでしょうか。各自の目標はどの程度達成できたでしょうか。この終業式を機に、次の新しい年度に向けて反省と展望を持つ時間を、自分の中できちんと持ってほしいと思います。学習、部活動、生徒会活動、生活習慣について、自己評価することが将来のために必要です。進級して、各学年の目標に応じた意識と言動が不可欠です。新入生も入学してきます。リーダーとして後輩たちの模範となり、リードしていく義務が生じるとともに、自己の進路について具体的に対応していかねばなりません。

今日は、前期生は２学期の、後期生は１年間の学習成果等が記された「通知表」が渡される、大きな締めくくりの日です。各自がこの１年間の学習への振り返りを行い、反省と改善をして来年度へ繋げていきましょう。

さて、今年度の学校の通知表である、生徒や保護者の皆さんによる「学校評価アンケート」（抜粋：生徒・保護者回答結果HP掲載）結果に触れたいと思います。各項目に「そう思う」と「ややそう思う」と肯定的な回答の合計%ですが（１）学校が楽しい：全校生徒92%、（２）中等の特色ある教育：全校生徒87%、（３）分かる授業：全校生徒91%、（４）基本的生活習慣：94%、（５）学校満足度：全校生徒88%･･･等が80%超えです。以上、特色ある佐渡中等への満足度、先生方の授業、生活一般について肯定的で素晴らしい結果であると言えそうです。

ところが以下の３点は80%未満でした。何かわかりますか。そうです。皆さんは自覚しています。
それは、（６）家庭学習習慣：全校生徒66%（１年：68%、２年：83%、３年：67%、４年：50%、５年：60%、６年：65%）、（７）進路指導：77%（１年：59%、２年：79%、３年：75%、４年：65%、５年：93%、６年：96%）（８）いじめ対応：全校生徒71%（１年：68%、２年：79%、３年：79%、４年：65%、５年：73%、６年：63%）･･･です。

特に、この「家庭学習習慣」が皆さんの自己評価の中で一番低い%となっています。ですから、皆さんは、私たちに言われなくても、すでに自分たちで気がついているのです。まずいなとわかっているのです。
先日、成績会議がありました。成績については、平日の学習習慣が確立され週末や考査前などもきちんと学習している生徒は好成績でした。一方、平素の学習の努力が不足している生徒も多数いると報告を受けました。生活面・学習面で、どこがよく、どこに問題があったのか反省してみてください。

（１）自分で体調管理を行い、授業を欠席しないようにしましたか。
（２）その教科、科目が不得意とか、力が無いとかそういうことではなくて、きちんと先生方の指導に従って、やるべきことにしっかり取り組みましたか。

また、学習に取り組むとは、ただ知識を学ぶだけではないのです。世の中に、社会に出たとき、十分通用する力

を養う場が、「学校」であると言うことができます。

例えば、先生に分からないところを教えてもらうときの姿勢。わからないところを、いきなり「わかりません」ではなく「自分なりに調べ考えたのですが、教えてください」と素直に教えてもらう姿勢は社会に出てからも重要です。そういう前向きで謙虚な姿勢を学び、人間関係を学ぶ大切な機会、そういう場所が「学校」です。
更に、考査期間のように限られた時間内で、最大の効果を発揮するための、学習の仕方を工夫することも重要です。このような段取り術や時間管理術は、社会に出て、短時間で最大の結果を出そうするプロセスにも応用できます。

次に「進路指導」について、学年に応じた先生方による適切な進路指導がなされているはずですが「まだ、先のこと」という意識の表れなのか、学年により大きな差が見られました。5、6年生は 90%超えで、さすが、いや当然と言えますが、先行き不透明な時代、激変する社会動向を見据え、自分の興味・関心、資質、適性を踏まえ、自分の将来像を熟慮し「仕事」に繋がる進路先を決めていきましょう。先週 16 日の卒業生受験体験報告会は、例年の5年生のみならず全校生徒が参加、充実した質疑応答もありました。いただいた刺激を生かし、健闘を祈っています。

そして「いじめ対応」について、「いじめは許さない」とあらゆる場面で話してきました。先生方には未然防止に努め「いじめ見逃しゼロ」をめざし、日ごろのHRや授業を通して多面的・多角的な見守りをお願いしています。「QU」「心の体温計」等、ほぼ毎月のアンケート、教育相談週間は年間に数回実施しています。結果から、皆さんが満足する指導が行き届いていないようですが、行き届いていませんか。これだけきめ細やかに対応している先生方、学校はない、と胸を張って言い切れます。いつまでも幼稚な言動をしているのではなく、大人になりなさい。そして、生徒皆さんが主体的に、相手を思いやる言動ができ、いじめを見逃さない正義感を身に付けなさい、と言いたい。成長した皆さんの姿を期待しています。

引き続き、今後もお互いが思いやりを持てるよう心がけ、辛いときは誰かにＳＯＳを発信して悩みを相談し、困っている人の悩みを受け止め、すくい上げることができる雰囲気をつくっていきましょう。

最後に、WBC 侍 JAPAN の３大会ぶりの世界一奪還となったアメリカとの決勝戦は、まるでシナリオがあったかのようなしびれるゲーム展開でした。特に大谷選手とマイク・トラウト選手との対決は圧巻で、まさに「ショータイム」でした。栗山監督の的中する采配、選手を信じる姿勢は学ぶことが多かったです。また、MVP の大谷選手の二刀流以上の活躍は言うまでもありませんが、前回の優勝やメジャー経験を踏まえてアドバイスしていたダルビッシュ選手、不調から復活した村上選手、骨折しながら華麗なプレーを魅せた源田選手、切込み隊長・ﾍﾟｯﾊﾟｰﾐﾙ・ﾊﾟﾌｫｰﾏｰヌートバー選手、今後が楽しみな佐々木投手はじめ若手選手等々、挙げればきりがありませんが、個々の役割をしっかりと行い、チーム一丸となった結果が世界一に結びついたのだと感じました。ダルビッシュ選手曰く「大谷選手が凄いのは表面的なところはもちろん、裏側、人に見せていないところの努力」とのこと。練習方法、食生活等をはじめ、日ごろの言動等、自分をしっかりコントロールできているところが卓越しているとのことです。

その大谷選手の「憧れるのをやめましょう」という言葉、心に響きました。言い換えれば、「憧れを憧れのままで終わらせてはならない」、「うらやましいなぁ」「凄いな」「いいなぁ」で終わってはいけない、ということか思います。憧れだけでは夢のままで、手にすることはできません。大谷選手の「勝つことだけを考えていきましょう」の強い言葉のとおり、それに裏打ちされた、見せない、見えない陰の努力をしてきましょう。

物事を成し遂げるには大胆さ・豪快さと、繊細さや緻密さという二律背反するような性格を備え、局面によって使い分けられることが必要であると考えます。力強いフルスイングのホームラン、こつこつと繋いで得点する細かいプレーが侍 JAPAN 世界一の勝敗を分けたように感じました。皆さんの中にもよくいる、大雑把なところ、繊細すぎるところも決して否定せず、強みとして、相反するもう一つの性格や特性にも磨きをかけてもらいたいです。今年度の総括、振り返りを踏まえ、皆さんが来年度へ向けて奮起し弾みをつける侍ジャパンの活躍でした。皆さんも仲間同士、学級、部活動、そして学校全体が一つのチームとして、少しでもお互いを思いやり、高め合い、フォローし合える雰囲気となれるよう期待しています。

この後、離任式があります。離任される先生方からの「最後の授業」となります。春休みはリフレッシュをしてください。令和５年度、佐渡中等がさらに生まれ変わって進化し、新たな学校づくりに全力を注いでいきたいと考えています。そして、「佐渡中等へ来てよかった」と、一人でも多くの生徒が感じてくれることをめざしていきます。４月６日始業式には気力、体力の充実した皆さんに再会したいと思います。以上で今日の話を終わります。